

# Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2017年11月13日発行 No.54

『しかし主人は、「はっきり言っておく。私はお前たちを知らない』と答えた。だから、目を覚ましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないのだから。』 (新約聖書 マタイによる福音書 25:12~13)

<新しい取り組みと発見の数々!! トライやるウィークで向洋中学2年生4名がセンターへ来館!!>

先週、チャペルは小さなお客様をお迎えしました。ご近所の向洋中学から2年生の4名がトライやるウィーク(職場体験)として、チャペル業務を体験しに来てくれました!! 掃除から式文折込、また大学生でも緊張する礼拝奉仕(サーバー)も初体験!! 初めは緊張の表情だった皆さんも、日を追う毎に、また新しい働きを経験する度に笑顔が増え、内容の濃い充実した一週間を過ごす事ができました!! 同じ六甲アイランドに位置する学校同士、これからも様々な交流を深めて行きたいですね!!



トライやる開始!! まずは掃除から



礼拝用式文の折込作業は協力して



昼休憩 定食はボリュームも Good!!



初めての昼礼拝 ちょっと緊張...汗



礼拝後の消灯も上手にできました!!



雨の日は映画も観ました

<確実にレベルアップしているチャペル!! 新しいアイテム導入でお尻の痛みもサヨウナラ!?!>

この秋、KIUのチャペルは、皆様の快適さを求めて更にグレードアップします!! 昨年からの検討事項であった長椅子のクッションを導入!! これで長時間座ってもお尻が痛くなる事はありません!! 今週からのチャペルウィークや、年末のオルガンコンサート等でも力を発揮しそうな予感...!! 皆様のお尻と心に優しいチャペルを目指し、ご来館をお待ちしています!! 色はシックなエンジ低反発のスポンジを使用 「座り心地も GOOD!!」



## <先週のメッセージ>

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています。

11月6日(月) テーマ:「呼吸する空間」

たつる

野間 光顕(チャプレン)

JR 住吉駅の近くに小さな合気道の道場があり、そこには内田樹(神戸女学院大学名誉教授)という師範がおられる。執筆活動に加え講演も盛んに行われる方で、先月末の講演に参加してきた。その中で内田さんはこう言われた。「現代の人間は、見る・聞く・臭う・食べる・触れるの五感の他に「感じる」力が急激に落ち込んでいる。情報化社会がものすごい勢いで浸透する中、全てを数値で表し理解しようとする「可視化」の波が、更に人間の「感じる」力を減退させているように思う…。」話を聞きながら、目に見えない霊的研鑽を積む場所であるチャペルを担当する者としての責任を更に強く思わされた。激動する国際情勢や、耳を覆いたくなるような悲惨な事件・事故が頻発する現代社会ではあるが、これからもチャペルは、訪れる学生・教職員の心を磨き続ける場所としていきたい。

11月7日(火) ※この日は入試のため礼拝はお休みでした。

11月8日(水) テーマ:「消費者金融の今と昔」

下田 繁則(経済学部長)

大学祭に来ていたお笑い芸人が借金の取立てのコントをしていた。皆さんは「借金」についてどんなイメージを持っているだろうか? 江戸時代には「烏金(からすがね)」とも呼ばれ、高い金利のせいで借りた金額が小額でもあつという間に破産に追い込まれた。現在でも消費者金融や闇金などがあり、計画的に利用しないと自己破産になってしまう。最近気になるのが、借りる形が多様化(便利なカードローンなど)や、高齢者の破産件数が増えてきている事だ。学生でも、奨学金を受けている人は、卒業後に返却するケースもあるだろう。この時代、計画的で堅実な生活が求められる様に思う。

11月9日(木) テーマ:「チャンスの掴み方」

岡田 敏和(経済学部1年)

「生活上、大切にしているものは?」と問われたら、何を連想するだろうか? 私は最近観た「イエスマン」という映画を通してこの問いの答えを見出した。全ての機会に「ノー」を言う主人公は、ある機会から「イエス」と答える所から人生が大きく変化する。極端な物語のように見えるが、実は私にも似たような経験がある。自信が無く消極的だった自分を変えるため、積極的にチャレンジする事を心掛け、行動に移してみると、驚くような結果と同時に、貴重な経験が与えられた。日々の生活では、多くの出会いやチャンスがある。私が生活する上で大切にしている事、それは「チャンスをつかみ、逃さない」という事だ。与えられた恵みにしっかり目を向けて一つでも多く自分の生活の中で生かしていきたい。



11月10日(金) テーマ:「現代の聖書を書く 山本周五郎」 大田 正紀(日本国際ギデオン協会)

先日友人から『聖書を読んだ30人』という本を薦められた。著者は、立教大学の宗教学者:鈴木範久先生で、歴史上の著名な人物がどんな経緯で聖書と出会い、どんな影響を与えられたかを紹介している。その中の一人、山本周五郎が強く心に残った。小さい頃から貧しい生活を強いられた周五郎は、東京の質屋に丁稚奉公に行く。そこで得た給料が父親の借金の為に天引きされている事実を知り、言いがたい憎しみを抱く。しかし、親元を離れて過ごす事から教会に通い始め、多くの友人とのかけがえのない出会いも与えられる。何より憎んだ父から受けたキリスト教の教えを、周五郎は生涯捨てる事無く保ち続けた。自分の命の意味、何のために、どのように生きるかを問うキリスト教との出会いが彼を大きく変え、成長させる事になる。

過日、ギデオン協会からKIUに聖書を贈呈した。これを手にする一人ひとりの生涯を照らしてくれる「光」が聖書にはある。どうかこのチャペルで命の福音と出会って欲しい。(文責:野間 光顕)